



TITLE:

讀者欄：寄書歡迎

AUTHOR(S):

CITATION:

讀者欄：寄書歡迎. 天界 1935, 15(168): 234-234

ISSUE DATE:

1935-03-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/166993>

RIGHT:

讀者欄 寄 書 迎

二月例会に出席して

壇上に立てられた黑板に横に一本すゝつと白線が引かれる、何の話が出るのだらう……………聴衆は壇上の講話者を注視し耳を傾ける。『先月三十一日には星が新年宴會をやりました』とおもむろに壇上の人には話し出される。オヤツ!! 不審氣な色が聴衆の顔に浮ぶ。やゝ間を置いて『西の空で金星と、土

星と、水星とが』といひながらコンペンタウの星が黑板の白線に近く三つ配置よく書かれる、なんだ一月三十一日 日没後西天に於ける三大遊星の會合のことだ、ウハ、ハ、哄笑が起る。笑聲が靜まる頃『案内狀はどの星へも出しましたが他の星は都合が悪くて來られず、集まつたのは三人だけでしたが仲々愉快に一夕を過ごしました』机の上に置かれた黒い折袍と風呂敷包に手を掛けながら眞面目な顔付で話される。爆笑がドツと舉る、笑聲は多角の凹凸のある天井に反響し、明々と室内を照らす電飾も身を震はせて笑つてゐる様である。續いて大犬座 α 星シリウスが尻臼である話、臺灣には北の方位が四つある話、天文電報『プロキオンサガセ』等々。

壇上の人には東亞天文協會副會長水野千里氏、去る二月十六日夜京都帝大樂友會館二階に於ける東亞天文協會二月例会の天文慢談の光景である。室には花山天文臺の柴田、小山、稻葉、木邊諸先生の御顔が拜見され、協會の高城、池田氏が會の進行の世話をなさつてゐる。集まる者は京都市内の會員を初め遠く大阪神戸より來られた熱心な會員諸氏である。

午後七時開會より拾時まで、山本先生の 新星の歴史、光度曲線、ノバヘルクレスの微細に渡る御講演、小山先生の御觀測上よりの ノバヘルクレスの御講話、水野副會長氏の天文慢談、更に新星に關する 幻燈寫眞の映寫あり、この一夕を得る點多く實に有意義に、亦遊星の新年宴會同様 愉快に送ることを得ました。

例会毎に花山天文臺へ學校へ出席出来る京都市内の會員の一名として深く幸福を感じてゐる次第であります。

(昭和十年二月十八日 宇野生)